

平成28年度地域包括支援センター事業評価
② 明第2地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市

平成29年7月

1. 組織／運営体制

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|-----------------------------------|---|---|------|-----------|---------|
| ①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。 | | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. 「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない | いる | | | |
| | イ. 「事業計画」を法人として決定している／いない | いる | | | |
| | ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成28年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない | いる | | | |
| | エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】 | 関係機関との連携強化とネットワーク構築に課題があるため、民生委員、介護支援専門員、医療機関等との会議、研修会、定例会の企画・出席を積極的に行う。社会資源マップを作成する。 | | | |
| | オ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】 | 年間業務スケジュール表の作成と実施状況の確認。実施報告書の作成と市への提出。 | | | |
| | カ. その他【任意・自由記入】 | 職員全員で平成27年度の評価と平成28年度委託契約仕様書を確認後、事業計画作成を話し合い作成した。 | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|---------------------------------|---|--|------|-----------|---------|
| ②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。 | | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】 | 平成29年4月1日現在 13,705人 | | | |
| | イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】 | 平成29年4月1日現在 独居世帯数 3,549世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数 8,802人 | | | |
| | ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】 | 平成29年4月1日現在 6,335人 | | | |
| | エ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】 | 平成29年4月1日現在 独居世帯数 1,878世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数 4,342人 | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|-------------------------------|---------------------------|---|------|---|---------|
| ③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。 | | 4 | 4 | 地域ケア会議アンケートにおいて最も多くの方が地域の課題として挙げた「地域住民による見守り力の強化」をテーマに外部講師を呼んで講演会を開催した。 | |
| 評価の根拠 | ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議出席委員への地域課題アンケートの実施 ・地域の民生委員定例会への出席による各民生委員からの直接聞き取り ・介護予防、認知症予防教室等実施後は参加者へのアンケートを行いニーズ把握を行っている ・日常業務での地域住民支援において収集した情報を月例会議において職員間で共有、意見交換して共通した課題や頻発している事例を確認する。 | | | |
| | イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議アンケートにおいて最も多くの方が地域の課題として挙げた「地域住民による見守り力の強化」をテーマに外部講師を呼んで講演会を実施し、地域関係者・住民88名の出席があった。 ・職員間の情報交換の中で地域内で高齢者の特殊詐欺被害が頻発している事例が相次いだので、町会長、民生委員、介護支援専門員への緊急アンケートを実施・分析した。その結果をもとに地域ケア会議において松戸市消費生活センターによる講演を依頼し、議事録とアンケート結果報告を町会長、民生委員、介護支援専門員に還元し注意喚起を促した。 | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|--------------------|---|---|------|-----------|---------|
| ④個人情報保護の徹底を行っているか。 | | 3 | 3 | | |
| 評価の根拠 | ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない | いる | | | |
| | イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない | いる | | | |
| | ウ. 個人情報の管理のためにしている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】 | ・個人情報資料は鍵付きの書棚に保管し終業時に施錠している。 ・パソコンはパスワードを入れないと始動できない設定にしている。 ・事務所が無人になる時は(株)セコムによる防犯セキュリティシステムを導入し、24時間防犯カメラによる録画を行っている。 | | | |
| | エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない | いない | | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | 個人情報の利用目的、個人情報取り扱いの基本指針を事務所入り口に掲示している。 | | | |

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|--|---|---|---------|-----|--------------|--------------|------|------------|------------|------|-------------|--------------|-------|--------------|--------------|-------|--|--|
| ⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。 | 4 | 3 | 課題として、明第2東地区の住民からは、センターが交通不便な場所にあり相談に行きにくいとの指摘を受けることがあった。 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 評価の根拠 | ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】 | ・センター営業時間外にかかってくる電話は24時間365日有人の法人本部の固定電話に転送され対応している。法人本部からの緊急連絡には、包括相談員が常時2名体制で所持している携帯電話で受ける体制をとっている。 ・営業時間外での相談希望にも対応できることをセンター入口外部に掲示している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>24 件内(20 件)</td> <td>4 件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>3 件内(3 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>42 件内(16 件)</td> <td>26 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>69 件内(39 件)</td> <td>30 件)</td> </tr> </tbody> </table> | | 本人又は親族 | その他 | 訪問 | 24 件内(20 件) | 4 件) | 面接 | 3 件内(3 件) | 0 件) | 電話 | 42 件内(16 件) | 26 件) | 合計 | 69 件内(39 件) | 30 件) | | |
| | | 本人又は親族 | その他 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 訪問 | 24 件内(20 件) | 4 件) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 面接 | 3 件内(3 件) | 0 件) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 電話 | 42 件内(16 件) | 26 件) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 合計 | 69 件内(39 件) | 30 件) | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】 | ・センター営業時間外にかかってくる電話は24時間365日有人の法人本部の固定電話に転送され対応している。法人本部からの緊急連絡には、包括相談員が常時2名体制で所持している携帯電話で受ける体制をとっている。 ・営業時間外での相談希望にも対応できることをセンター入口外部に掲示している。 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>12 件内(12 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>2 件内(2 件)</td> <td>0 件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>27 件内(4 件)</td> <td>23 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>41 件内(18 件)</td> <td>23 件)</td> </tr> </tbody> </table> | | 本人又は親族 | その他 | 訪問 | 12 件内(12 件) | 0 件) | 面接 | 2 件内(2 件) | 0 件) | 電話 | 27 件内(4 件) | 23 件) | 合計 | 41 件内(18 件) | 23 件) | | | |
| | 本人又は親族 | その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 訪問 | 12 件内(12 件) | 0 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 面接 | 2 件内(2 件) | 0 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電話 | 27 件内(4 件) | 23 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 41 件内(18 件) | 23 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ※17:00以降に対応した件数 | <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>件内(件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>件内(件)</td> <td>件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>6 件内(0 件)</td> <td>6 件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>6 件内(0 件)</td> <td>6 件)</td> </tr> </tbody> </table> | | 本人又は親族 | その他 | 訪問 | 件内(件) | 件) | 面接 | 件内(件) | 件) | 電話 | 6 件内(0 件) | 6 件) | 合計 | 6 件内(0 件) | 6 件) | | | |
| | 本人又は親族 | その他 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 訪問 | 件内(件) | 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 面接 | 件内(件) | 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 電話 | 6 件内(0 件) | 6 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 6 件内(0 件) | 6 件) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オ. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している/いない | いる | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】 | 町会サロンに出向き、地域包括支援センターの業務内容についてPRを行った(年3回) 圏域内の事業所に包括のパンフレットを置かせてもらっている | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| キ. その他【任意・自由記入】 | 明第2東地区の住民からは、センターが交通不便な場所にあり相談に行きにくいとの指摘を受けることがあった。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|----------------------------------|---|---------------------------------|------|-----------|---------|
| ⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。 | | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 苦情受付件数 6 件 (内センター自体の苦情 3 件) | | | |
| | イ. 「28年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】 | 解決時間: 2 時間 連携機関: 市役所高齢者支援課 | | | |
| | ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している／いない | いる | | | |
| | エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】 | 事務所入り口に苦情解決に関する規定を掲示している。 | | | |
| | オ. 重大な苦情の内容及び対応内容を決定し、関係機関と共有している／いない | いる | | | |
| | カ. その他【任意・自由記入】 | 苦情受付表を作成し、組織としての迅速な対応と報告を行っている。 | | | |

2. 人員体制

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|---------------------------------------|--|---|------|-----------|---------|
| ①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。 | | 4 | 3 | | |
| 評価の根拠 | ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入 | 保健師等 : (0)日 社会福祉士 : (0)日 主任介護支援専門員 : (0)日 | | | |
| | イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職/専門職総数)を記入】 | 57.10% | | | |
| | ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成29年3月末現在の平均勤続月数を記入 | 平均 18.6 月 | | | |
| | エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】 | 5 回 | | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | 地域包括支援センター現任研修、虐待防止対策研修、医療介護連携研修、司法専門職と障害福祉専門職との勉強会(ひまわりネットワーク)等、スキルアップのための外部研修に積極的に参加し、研修出席者による他の職員への伝達を行った。 | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|----------------------|---|--|------|-----------|---------|
| ②専門職間の連携を効果的に行っているか。 | | 3 | 2 | | |
| 評価の根拠 | <p>ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成29年3月末現在在籍している全ての専門職について記入</p> <p>平均 23.7 点</p> | <p>①18 ②23 ③20 ④37 ⑤27 ⑥19 ⑦22</p> | | | |

3. 総合相談支援業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 | |
|---------------------|---|--|-----------|---------|--|
| ①相談内容の把握・分析を行っているか。 | 4 | 4 | | | |
| 評価の根拠 | ア. 分類別の相談件数 (28年度1年間) a.本人又は親族への支援 【件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関に支援 【件数を記入】 | a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 2231 件 健康・医療に関する相談件 1337 件 経済的相談 415 件 介護予防相談 437 件 家族調整に関する相談 361 件 権利擁護に関する相談 382 件 諸制度に関する相談 61 件 その他 853 件 総計 6077 件 b.本人又は親族以外の機関に支援 介護に関する相談 1595 件 健康・医療に関する相談 928 件 経済的相談 394 件 介護予防相談 184 件 家族調整に関する相談 299 件 権利擁護に関する相談 408 件 諸制度に関する相談 40 件 その他 738 件 総計 4586 件 | / | | |
| | イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】 ※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討 | 本人又は親族への支援件数は11包括中2番目に多かった。最も多かったのは「介護」2番目が「健康医療」に関する相談で、この二つで60%弱を占める。各相談分野の構成比率において他センターと比較すると、「権利擁護」「経済的問題」「介護予防」「家族調整」の割合が多く、「介護」「健康医療」の割合が少ない。この結果から、最もニーズが多い介護・健康・医療の分野にとどまらず、多様な分野の相談に応じていると言える。 | | | |
| | ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している／いない | いる | | | |
| | エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている／いない | いる | | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|--|---|------|--|---------|
| ②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。 | 4 | 3 | 毎朝のミーティングで全職員が前日のケース報告を行い、職員間でケースの情報を共有。困難ケースについては、毎週1回のケース対応会議で課題と方針の確認を全員で行う。月例会議では全員でケース終結の判断をしている。 | |
| ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている/いない | いる | | | |
| イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】 | 子と二人暮らしの高次脳機能障害の高齢者が、お金がないとの理由でサービス利用中止し生活環境が悪化していたため、見守り訪問を継続し介入拒否の子に粘り強く経済的問題の相談をするよう説得していた。本人の病状悪化による入退院・老健入所支援を契機に子が包括に相談をするようになり子自身が不法と思われる低賃金での雇用をされていたことなどが判明し、生活保護受給や雇用の問題解決の支援を市生活支援課と連携して行った。 | | | |
| ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】 | パニック障害、アルコール依存症の子と暴言や金銭問題でのトラブルが続く高齢者が自宅を売却して施設入所したいとの相談。介入拒否する同居の子の自立支援をほっとねっとと粘り強く連携して行い分離することができた。高齢者本人には自宅売却手続きを行う専門業者を探したり交渉したりする能力が不足していたため、その支援も行った。 | | | |
| エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】 | 障害者の子①の金銭管理等を介助しながら二人暮らしていた高齢者の物忘れが進行したため高齢者を介護をするようになった子②からの相談。認知症専門医受診、介護申請、ケアマネ探し、子①の支援機関(障害)紹介等支援したが、高齢者への依存が強く支援機関の介入を拒否する子①と子②との関係が警察沙汰になるまで悪化し、高齢者と子①を分離し特養への入所を支援。主治医の意向で子①との面接制限となり、入所後も包括が家族支援に介入し、徐々に家族関係の修復、再構築を支援した。 | | | |
| オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】 | なし | | | |
| カ. その他【任意・自由記入】 | 毎朝ミーティングで全職員が前日のケース報告を行い、職員間で全ケースの情報を共有している。困難ケースについては毎週1回のケース対応会議で全員で課題と方針の確認を行っている。月例会議では全員でケース終結の判断を行っている | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|-------------------------------|---|--|------|-----------|---------|
| ③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。 | | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない | いる | | | |
| | イ. 職員が依頼に基づき参加した関係機関・組織における全ての会議・行事等(※)の日程・テーマ 【日程・テーマを記入】 ※①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント(テーマ記入不要)、②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント、③地域密着型サービス事業者の運営推進会議に大別して記載(地域ケア会議や医療関係者とのカンファレンスなどを除く) | ①住民向け 7/17 町会サロン【テーマ】熱中症対策について 10/16 町会サロン【テーマ】介護保険とケアマネについて 10/18 町会サロン【テーマ】要介護認定申請について 2/25 社協こども祭り【テーマ】地域住民への地域包括支援センターの紹介 12/20 高齢者支援連絡会交流会【テーマ】各地区の課題を話し合う ②専門職向け 5/23 特別養護老人ホーム秋桜職員研修【テーマ】地域包括ケアシステムの基礎的理解 3/1 弁護士・司法書士・福祉職の勉強会「ひまわりネットワーク」【テーマ】松戸市の地域包括支援センターの業務内容 ③運営推進会議 ・小規模多機能わいわい豊夢 4/9、6/11、10/8、12/10、2/11 ・グループホームみくに松戸の園 5/14、9/10、11/12、1/14、3/11 ・グループホームみくに栄の園 5/14、9/10、11/12、1/14、3/11 ・グループホーム愛の家上本郷5/14、7/16、10/8、11/19、1/21、3/18 ・地域密着通所介護フラワーハウス栄町 3/30 ・地域密着通所介護フラワーハウス西の家 3/28 ・地域密着通所介護 一休 3/29 ・地域密着通所介護トータルリハセンター北松戸 2/24 | | | |
| | ウ. 個人の有するネットワークを専門職で共有している/いない | いる | | | |
| | エ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|------------------------|---|---|------|--|---------|
| ④地域の社会資源について把握を行っているか。 | | 4 | 3 | エ. については、ファイルブックにして圏域の全介護事業所22か所に配布している。 | |
| 評価の根拠 | ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(○ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等 | 圏域内10ヶ所 (配食1 見守り2 移送1 サロン5 地域の予防活動1) 圏域外 9ヶ所 (配食5 見守り0 移送2 サロン0 地域の予防活動2) | | | |
| | イ. アの地域の社会資源を開発するためにしている方策【自由記入】 | ・地域の見守り機能を強化するために、地域ケア会議で実施した「見守り講演会」に見守りの役目を担ってくれる町会代表者6名、オレンジ協力員11名、高齢者支援連絡会11名、その他60名に出席してもらった。 ・安否確認が必要な利用者について、配食サービス業者に弁当配達時に利用者の安否確認を依頼している。 ・住民主体の集いの場を創出するために都市型介護予防「松戸プロジェクト」に包括自ら参加するとともに、地域住民に対する説明会を開催し参加を促した。 | | | |
| | ウ. 地域の社会資源やその情報の収集方法【自由記入】 | ・インターネットの活用 ・できるだけ多くの研修・会議・会合等への参加による情報収集 ・福祉、医療、司法関係者等との日常的な情報交換 ・各種社会資源のパンフレット収集と保管 | | | |
| | エ. 地域の社会資源に関するマップやリストを作成している／いない | いる | | | |
| | オ. 地域の社会資源に関するマップやリストを逐次見直している／いない | いる | | | |
| | カ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

4. 権利擁護業務

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|------------------------------------|--|--|------|---------------------------------------|---------|
| ①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。 | | 4 | 4 | ア. について、明文化はしていないが、一定の指標をもって業務に当たっている | |
| 評価の根拠 | ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】 | アセスメントにおいて、①本人に日常生活費の管理を行う能力が十分あるか ②家計が黒字になっているか ③金銭管理を任せられる、信頼できるキーパーソンが存在するか ④家族親族間に金銭・相続に関するトラブルはないか ⑤「オレオレ詐欺」等特殊詐欺の被害にあつたことがないか ⑥本人の管理能力を超える財産や事業収入等がないか 等を確認している。 | | | |
| | イ. 成年後見制度活用につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討 | 平成28年度に成年後見制度につないだ件数は4件。すべて親族申立であった。11包括中3番目に多い(平成28年9月現在)。本人と不仲であったり関係が薄いということで当初は申立人となることを拒否していた親族に対して丁寧に誠実な説明を行って申し立て人となってもらったケースが2件あった。今後もケアマネ研修や介護者の集い等においてに成年後見制度の啓発をさらに積極的に行い、成年後見が必要な高齢者が制度を活用できる活動を行っていく。 | | | |
| | ウ. 日常生活自立支援事業につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討 | 平成28年度に日常生活自立支援事業につないだのは1件であった。他の包括では0件が多い(平成28年9月現在)。今後もケアマネ研修や介護者の集い等で日常生活自立支援事業の啓発を行っていく。 | | | |
| | エ. その他【任意・自由記入】 | 日常生活自立支援事業や成年後見が確定するまでの期間において、本人の財産を守るためにやむを得ず金銭管理等を包括やケアマネが行っている実態が明らかになっている。当包括でも行っており、本人や親族とトラブルが発生した時の責任の所在について大いに不安がある。 | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|--|--|---|------|-----------|---------|
| ②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。 | | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事案の件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 3件 | | | |
| | イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない | いる | | | |
| | ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例) | 同居の子からの身体的・心理的虐待が原因で入水自殺企図し保護された認知症の高齢者と通報から24時間以内に警察で面接した。ショートステイへの避難、子との面接を行いケアマネ選定、デイサービス利用による介護負担の軽減等の支援を行った。子も本人を介護しながらの自分の将来に絶望感が強く両者とも本人の施設入所を望んだが経済的な問題があったため生活保護申請支援、施設入所支援を行った。 | | | |
| | エ. その他【任意・自由記入】 | 虐待の背景に高齢者や養護者・親族が抱えている精神疾患や経済困窮の問題があるケースが多いため、支援の内容が多様で時間がかかる傾向が強まっている。関係機関の連携をさらにすすめていきたい。 | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|------------------------------------|---|--|------|--|---------|
| ③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。 | | 4 | 4 | 地域ケア会議に松戸市消費生活センターに出席してもらい高齢者の消費者被害・特殊詐欺被害の実態を報告してもらい、民生委員、ケアマネ、サービス事業者等と被害防止の対策等を話し合った。 | |
| 評価の根拠 | ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】 | 6か月に1回以上は消費生活センター事務所に出向き、最新の情報、パンフレット等を入手している。地域ケア会議に消費生活センターに出席してもらい情報提供と防止対策の話し合いを行った。 | | | |
| | イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】 | 地域ケア会議に松戸市消費生活センターに出席してもらい高齢者の消費者被害・特殊詐欺被害の実態を報告してもらい、民生委員、ケアマネ、サービス事業者等と被害防止の対策等を話し合った。消費生活センターのパンフレットやチラシをセンター窓口に常備して来所者に配布している他、住民集会等で配布している。 | | | |
| | ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の日程・内容・主な参加者層・参加者数【日程・内容・主な参加者数を記入】 | 平成29年2月23日、タイトル「みんなで守ろう高齢者の権利」、内容:市民劇団による寸劇と包括職員による解説で高齢者虐待や消費者被害の防止を訴えた。主な参加者:地域住民、民生委員、ケアマネ、介護事業者。参加者数:47名。(中央管区の4包括共同開催) | | | |
| | エ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|-------------------------------------|---|---|-----------|--|
| ①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的にしているか。 | 4 | 3 | | エ. について、ケアマネが必要な様々な分野の研修が行われており、工夫がなされている。 |
| 評価の根拠 | ア. 28年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【件数を記入】 | 1226件 | | |
| | イ. 「28年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】 | 認知症の高齢者を介護をしていた配偶者と子が「本人が怠けているだけだ」「お金がない」「子は支援者を信用していない」「家にいるんな人が来てほしくない」と言って、デイサービス・ショートステイ・福祉用具の追加利用を拒否しているというケアマネからの相談。最初はデイサービスの場所を借りて配偶者だけと介護負担の重さに理解を示すなどの話し合いから始め、状態悪化の原因を診てもらうために別の病院に同行受診するなど徐々に関係を築いてきた。その後、配偶者の体調が悪化しさらに家族での介護が難しくなったが、スムーズに医療機関との連携が取れ、本人・家族への支援体制を改編でき、会話を拒否していた子とも話し合いができるようになり、最終的には子が最も心配していた本人の借金問題に対しても解決の道筋をたてられた。 | | |
| | ウ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】 | 3回 | | |
| | エ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師【日程・内容・講師を記入】 | ①平成28年9月12日 「介護予防プラン作成の基本」 参加者54名 講師: 明第2包括予防管理者 ②平成28年12月12日 「地域の社会資源」 参加者30名 講師: 松戸市社会福祉協議会 ③平成29年2月13日 「通所系サービス事業所プレゼンテーション」(14の通所系事業所によるプレゼンテーション) 参加者数44名 | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | | | |

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|--|--|---|-----------|---------|
| ②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。 | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。 | 190件 | | |
| | イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】 | 配偶者、子、孫2人と同居している高齢者が、子との長年の不仲を理由に借家を解約して自分と配偶者は施設に入りたいと言っているので、本人の希望を叶えてやりたいという介護支援専門員から包括に相談があり同行訪問した。本人は自分が家を出ると子の家族の家計が破たんして生活ができなくなることを理解していたが、本人と子の関係は修復不可能なほど悪化していた。ケアマネに対しては、施設入所についての本人からの相談窓口は包括が受け持つので、傾聴と在宅継続のための支援を継続して欲しいと助言した。本人に対しては、最終決断さえしてくれば、希望に沿って包括が子と具体的な手続きのための話し合いを行っていくので一緒にゆっくり考えていくことにした。ケアマネと包括で役割分担を明確にしたことでケアマネの過剰な負担感を軽減できた。 | | |
| | ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 117件 | | |
| | エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】 | 親(要介護2)と子の二人世帯の担当者会議に同席。経済的な問題と子によるケアマネに対する不信が重なり、子から介護サービス中止の申し入れがあった。中立の立場として包括が入って話し合い、サービスの継続と包括による経済困窮に対する相談支援を行っていくことになった。 | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | | | |

6. 地域ケア会議関係業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|---|---|------|--|---------|
| ①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。 | 4 | 4 | 地域ケア会議委員、出席者全員に地域課題・検討課題のアンケートを実施している。 | |
| ア. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない | いる | | | |
| イ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】 | 地域ケア会議委員、出席者全員に地域課題・検討課題のアンケートを実施している。 | | | |
| ウ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない | いる | | | |
| エ. ウが「いる」の場合に、当該地域個別ケア会議の事例と参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【職種を記入】 | 【事例】パニック障害でアルコール依存症疑いの子が、同居の親に経済的に依存し親が拒否すると大声で暴言を吐き警察沙汰になるほどのトラブルを繰り返す親子の事例。親子の分離とそれぞれの自立支援を話し合った。 【職種】精神保健福祉士、民生委員 | | | |
| オ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議事録)を参加者間で共有している／いない | いる | | | |
| オ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 | | | | |
|-------------------------------------|--|---|-----------|---------|--|---|--|--|
| ②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。 | 4 | 4 | | | | | | |
| 評価の根拠 | ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】 | <p>認知症高齢者の自宅がゴミ屋敷になってしまい、近隣とトラブルになっている事例。周辺住民は何年も前から問題視していたが、その声が支援機関に届いていなかった。ゴミ屋敷問題に早期対応するためのポイントとして、①住民がゴミ屋敷になる原因の一つに認知症がありうるということを知る ②住民が認知症についての正しい理解を持って高齢者に対応する ③ゴミ屋敷に住む高齢者に関する相談先として地域包括支援センターの知名度を上げる ④地域包括支援センターだけで解決できる問題ではないので、市役所の環境部署(ゴミ収集)や医療機関、警察等多機関の連携が大切である等を推進会議で話し合った。</p> | / | | | | | |
| | | <p>統合失調症で独居の高齢者の世話を30年近く隣家の知人が一人で抱え込んでいた。最近になって本人の精神面が急速に悪化し、知人一人では対応できなくなっていたところ、家で火傷をしてしまい、知人が皮膚科に連れて行ったにもかかわらず、傷が悪化し指を切断するまでになってしまった。皮膚科医は地域包括のことを知らなかったため相談もできなかった。地域の住民や医師が心配な高齢者を見つけたときは、自分たちだけで抱え込まずに早期に民生委員や地域包括に連絡することが必要であること、そのために日頃から民生委員と地域包括が緊密に連携をとること、地域住民や医師に対して地域包括の知名度を上げる必要があること等を推進会議で話し合った。</p> | | | | | | |
| | イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない | いる | | | | / | | |
| | ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない | いる | | | | | | |
| エ. その他【任意・自由記入】 | | / | | | | | | |

7. 在宅医療・介護連携推進業務

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|----------------------|--|---|------|-----------|---------|
| ①医療機関との緊密な連携を行っているか。 | | 4 | 3 | | |
| 評価の根拠 | ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】 | 精神障害の子が認知症の親を介護している世帯への支援において、子、親共に状態が悪化したため、子による親の外来受診同行が困難となったため、主治医に訪問診療への切り替えを依頼した。 末期がんの独居高齢者の終末期を支援したケース。通院が困難となったため訪問診療と訪問看護を開始し連携支援した。その後家族に看取られ亡くなった。 | / | | |
| | イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】 | 1年以上うつ状態が続き「死にたい」と頻回に発言している高齢者が外来受診している主治医の医療機関と連携して見守り、情報共有を行った。 認知症の病識がない高齢者が体調不良という連絡がケアマネから包括に入ったため、包括が以前から連携していた高齢者の外来主治医に連絡相談し、他の総合病院への紹介状をもらい同行受診し入院となった。 | / | | |
| | ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】 | 原因不明の急激な意欲低下、自発性低下、ADL低下が起きた高齢者に対して介護負担が増大した配偶者が虐待をしてしまった事例。脳神経外科のある病院の地域包括ケア病棟への入院を支援し、家族のレスパイトを行った。その後その病院において水頭症が判明し手術を行った。 要介護5の高齢者をどうしても家で介護すると主張する配偶者に対して、それは無理という入院先病院から、包括に支援要請があった。話し合いに同席し在宅介護する場合のメリット・デメリット・リスクを中立の立場で助言し、老健入所を支援した。 | / | | |
| | エ. その他【任意・自由記入】 | | / | | |
| | | | / | | |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| ②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。 | 4 | 3 | | |
| ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(28年度1年間)【件数を記入】※相談支援件数・アウトリーチ件数・合計を記入 | <p style="text-align: center;">相談支援件数 1 件 アウトリーチ件数 0 件 合計 1 件</p> | / | | |
| イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】 | <p>本人が一日中家に居て全く体を動かさないという、配偶者からの相談があった。長期間医療機関にかかっていないため、近所の開業医を受診し主治医意見を依頼したが、受診歴がなく現在病気もないという理由で断られたため、地域サポート医に相談した。サポート医を受診し介護保険のための主治医意見書を書いてもらい、その後は本人が他の近所の診療所を主治医として定期受診するようになった。</p> | / | | |
| | <p>配偶者と二人暮らしの80代。精神的に不安定になる頻度が増え「死にたい」という発言が増え、本人が病院を紹介して欲しいと希望したため、地域サポート医に相談後受診した。その後サポート医から紹介してもらった精神科を受診後任意入院となった。</p> | / | | |
| ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するためにしている具体的な方策【自由記入】 | <p>医療・介護連携に関する会議や研修に積極的に参加している。また包括と同一建物内にある同一法人系列の訪問看護ステーションと地域の在宅医療に関する最新情報について頻繁に情報交換を行っている。</p> | / | | |

| | | | | | |
|--------------|--|---|--|--|--|
| <p>評価の根拠</p> | <p>エ. 医療関係者と合同で参加した全てのカンファレンス・研修の日程・テーマ【日程・テーマを記入】</p> | <p>①平成28年7月12日：東葛北部地域リハビリテーション広域支援センター認知症患者医療センター合同連絡協議会【テーマ】(1)介護予防・日常生活支援総合事業とリハビリスタッフとの協働について (2)認知症初期集中支援チームの活動について ②平成28年7月14日：笑顔のおうちクリニック「地域包括共創プロジェクト」【テーマ】在宅高齢者の服薬管理 ③平成28年7月20日：【テーマ】地域包括ケアの時代における医療・介護の成長戦略 ④平成28年10月13日笑顔のおうちクリニック「地域包括共創プロジェクト」【テーマ】自宅でできる高齢者の栄養管理 ⑤平成28年10月19日：【テーマ】認知症の総合アセスメント(DASC研修) ⑥平成29年2月2日：在宅医療関連多職種連携会議【テーマ】脳卒中連携における在宅医療の位置 ⑦平成29年3月9日：認知症サポート医フォローアップ研修会【テーマ】改正道路交通法と認知症高齢者の運転免許返納について ⑧平成29年3月27日：在宅医療介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会【テーマ】地域サポート医の活動報告</p> | | | |
| | <p>オ. その他【任意・自由記入】</p> | | | | |

8. 認知症高齢者支援

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|-------------------------|--|--|------|-----------|---------|
| ①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。 | | 4 | 3 | | |
| 評価の根拠 | ア. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 2件 | | | |
| | イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容【自由記入】 | 配偶者と二人暮らしで認知症の病識の無い高齢者の事例。受診拒否、服薬拒否、入浴拒否、配偶者への過剰な依存と付きまとい等で家族が疲弊していた。チームと訪問を繰り返し、夫婦連れだつての犬の散歩に同行するなど信頼関係を築き専門医の受診につなげた。医師からは入院を勧められたが家族が在宅を希望したため小規模多機能サービス利用開始した。 | | | |
| | ウ. DASCを活用した軽度認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 6件 | | | |
| | エ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】 | 配偶者と二人暮らしで胸椎圧迫骨折の既往がある。骨折後に閉じこもりがちになり配偶者も本人の物忘れを気にしていた。セルフケアとして近所の散歩、自宅での体操、脳トレ問題集、配偶者とのオセロゲーム、体重管理を実施。骨折の後遺症からのリハビリのためデイサービスの利用も開始した。 | | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|------------------------------|--|--|------|--|---------|
| ②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。 | | 3 | 3 | グループホームで開催した運動会にオレンジ協力が員が参加し認知症高齢者とのコミュニケーションの取り方を学びながら認知症の方の社会交流、活動を支援している。 | |
| 評価の根拠 | ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 2件 | | | |
| | イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動(1事例)の内容【自由記入】 | グループホームで開催した運動会にオレンジ協力が員が参加し認知症高齢者とのコミュニケーションの取り方を学びながら認知症の方の社会交流、活動を支援した。 | | | |
| | ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程、主な参加者層及び参加者数【日程・主な参加者層・参加者数を記入】 | ①平成28年6月8日【参加者層と人数】地域住民40名 ②平成28年6月11日【参加者層と人数】地域住民と小規模多機能事業所従事者20名 ③平成28年11月9日【参加者層と人数】地域住民、特別養護老人ホーム従事者24名 ④平成28年12月15日【参加者層と人数】有料老人ホーム従事者15名 ⑤平成28年12月22日【参加者層と人数】有料老人ホーム従事者13名 | | | |
| | エ. 認知症ケアパスの普及啓発のためにしている具体的方策【自由記入】 | 認知症サポーター養成講座、町会サロン、ケアマネ研修会等での認知症ケアパスの配布 | | | |
| | オ. その他【任意・自由記入】 | | | | |

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|---------------------------|--|---|-----------|---------|
| ①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。 | 4 | 3 | | |
| 評価の根拠 | ア. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】 | 要支援2。右人工股関節置換術後、本人が人工関節の脱臼に対して不安が強く、週2回デイケアに通っているがリハビリにも消極的だった。手術を行った主治医とも連携し、医師から関節可動域やリハビリの話をしてもらうことで1年近くかけて不安を解消していき、包括主催の体操教室につなぎ、現在は休むことなく参加している。また、手術後久しく休んでいた舞踊の会にも顔を出すなど、交流範囲が徐々に回復しつつある。 | | |
| | イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】 | 事業対象者60代。パーキンソン病の既往のため、定年退職後に外出の機会が減っており、体力低下傾向にあり相談に来る。リハビリ型デイサービスを半年通った段階で、(元々若いこともあり)体力に自信がついてきて、市の広報を見て英会話の教室に通い始めたり、自宅近くの介護施設でのボランティア等を始める。その後、自らシルバー人材センターに登録し、仕事をするに至る。 | | |
| | ウ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】 | ここ数年うつ傾向強く、必要最小限のことでしか外出していなかったため、運動器(3/5)口腔(2/3)と腰痛の改善のため短期集中予防サービスを利用。事後は両項目とも非該当となる。うつ項目は変わらずであったが、本人も「運動するようになって腰痛もおきなくなったし、出かける日があるっていいことね」と効果を実感し前向きになってきた。その後はその事業所の自費サービス利用に移行した。 | | |
| | エ. その他【任意・自由記入】 | 仲のいい友人を立て続けに亡くし気落ちしていたことと、股関節痛のため日常生活での動作に苦痛と制限があった。短期集中予防サービスを利用した結果、運動器が開始前(4/5)から利用後(1/5)に改善し、その後短期集中サービス事業所の自費サービス利用に移行。現在は、若いときから行っていた教会でのボランティア活動にも、以前のように参加できるようになってきた。 | | |
| | | 3か月に1度以上の自宅訪問と月に1回以上の電話等でのモニタリングで、サービスの利用状況や目標の達成具合、サービス量が適切かどうか、体調の確認等を行っている。ケアプラン更新月にはモニタリングと評価のための訪問と、その後作成したケアプラン原案の説明のための再度の訪問を行っている。 | | |

| 評価項目 | | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|------------------------------------|--|---|------|--|---------|
| ②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。 | | 4 | 4 | <p>・ケアプランチェックにおいて、ケアマネに助言、指導を行い、改善が見られないケアマネには委託しない。(年間2人位)</p> <p>・受託先の確保のため、包括独自のケアプラン作成マニュアルを作成し、研修を実施している。その結果、ケアマネの理解が深められつつある。</p> | |
| 評価の根拠 | ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するためにしている具体的方法【自由記入】 | 予防ケアプランのチェックにおいて、必要に応じてケアマネに助言・指導を行い、改善を行わないケアマネには委託を行わないようにしている。 | | | |
| | イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない | いる | | | |
| | ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない | いる | | | |
| | エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】 | 予防プランを積極的に受託したいというケアマネは少なく、できれば受託したくないというケアマネが多いため、委託先を確保することが困難となっているのが現状。介護予防支援費の報酬が低いということもその理由の一つだが、予防のケアマネジメントやプラン作成が苦手であるという理由を挙げるケアマネが多いため、明第2包括独自のケアプラン作成マニュアルを作成しケアマネ研修を行い優良な委託先の育成に努めている。 | | | |
| オ. その他【任意・自由記入】 | | | | | |

10. 松戸市指定事業

| 評価項目 | 回答欄 | 行政評価 | 主な好事例・課題等 | ヒアリング事項 |
|----------------------|--|--|-----------|---------|
| ①松戸市指定事業を適切に実施しているか。 | 4 | 4 | | |
| 評価の根拠 | ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 | ○合計開催回数:46回 参加総数 1991名 (明第2西地区:28回) (明第2東地区:18回) ○最多参加者数 75名(平成29年3月13日実施、内容:ロコ脳体操、主な参加者層:地域住民) | | |
| | イ. センターが開催する認知症予防教室の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】 | ○合計開催回数:3回 参加総数:59名 ○最多参加者数21名(平成28年10月4日実施、内容「認知症とその予防について医学的理解を深める」、主な参加者層:地域住民) | | |
| | ウ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】 | ①オレンジ協力員との意見交流会を実施(平成28年7月27日)し、専門職との実践活動を2回(10月15日、3月31日)を実施した。 ②都市型介護予防モデル「松戸プロジェクト」の説明会を独自に古ヶ崎市民センターで開催したり、地域ケア会議、民生委員定例会で内容の説明を行ったり参加を呼び掛けて、地域住民に対してボランティア育成のための普及啓発を行った。 | | |
| | エ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】 | 介護保険認定申請代行: 139件 住宅改修の助言・理由書作成: 0件 その他: (): 0件 その他: (): | | |
| | オ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】 | ・ケアマネ向け研修会において、ケアプランに介護保険サービス以外の各種公的サービス、インフォーマルサービスの活用を指導し、さらに社会福祉協議会から講師を招いて福祉サービスの説明会を開催した。 ・「松戸市ながいき手帳」「松戸市在宅高齢者向け保険・福祉サービス一覧」を窓口において、利用者への説明・配布を行っている。 | | |